

あなたがここにいるから・・・

自分に勝つ…温かな声援を受けて

「声援を受けて」

「みなさんの応援のおかげです」

これは、あらゆるスポーツで試合後によく聞かれるセリフです。



つい先日のサッカーワールドカップでも、幾度となく選手や監督から発せられました。

たびたび聞こえるものですから、私は、正直、「お礼」や「社交辞令」の一つのようにも感じていました。

しかし、それは、大きな間違いでした。

12月9日、雪小冬の恒例行事、持久走記録会を開催しました。



例年同様、雪浦中区に設定したコースで行いましたが、当日は、寒い中にもかかわらず、多くの保護者、地域の方が応援に駆けつけ、ご自身のお子さんのみならず、ほかの学年のレースにもたくさんの声援をくださいました。

11月に行った試走では、十分に力を発揮できなかつたり、あと一步のところであきらめてしまったりする姿も見られました。

しかし本番では、明らかに試走や練習とは違いました。

途中、きつそうにしていた子どもが、保護者や地域の方の大きな声援を受け、そこから歯を食いしばってスピードを上げる場面を何度も目にしました。



沿道からの声援が、雪小っ子の背中を確実にあと押ししてくれました。止まりそうな足を再び持ち上げてくれました。

持久走を通して、「自分に勝つ」という目標を達成し、雪小っ子は、皆、晴れ晴れとした表情でした。

今回、応援の持つ力をあらためて実感しました。

まさに、「応援のおかげ」です。
ありがとうございました。

「話す力」と「聞く力」

読書の時間を利用して、縦割り班による読み語りを行いました。

読み手も聞き手も雪小っ子です。

読み手は、「かざぐるまの会」の皆様の読み語りを手本に、それぞれに工夫して読んでいました。抑揚をつけ、表情豊かに読み語りをを行う姿には、確かな成長を感じ、たいへんうれしく思いました。

※裏面に続く

※表面から続く



そして今回、私が特に感銘を受けたのが、「聞き手」の子どもたちの姿でした。

縦割りメンバーによる読み語りを、同じ班の仲間が聞くわけですが、どの班も真剣そのものです。



全員がしっかりと顔を上げ、ときには相槌を打ちながら、ときには反応しながら、聞き漏らさないように耳を澄ましています。

日ごろ、元気に運動場を駆け回っている子どもも、この時ばかりはじっと耳を傾けています。

「決して、すべての子どもが、ものすごく物語に興味をもっているわけではないはず。それなのに、なぜこんなにも一生懸命に聞くことができるのだろう・・・。」

放課後、職員に投げかけてみました。



「いったい何が、今日のような『聞く力』につながっているのだろうか・・・。」と。

- 「かざぐるまの会」による日ごろの読み聞かせのおかげ
- 「つがねの会」のご支援による定期的なロビーコンサートのおかげ
- 全学級で進めているガイド学習「雪小スタイル」の成果
- 日ごろの縦割り交流活動による異学年の友達への感謝、憧れ、畏敬の念

もちろん、明確な答えにたどり着いたわけではありませんが、こうした取組の積み重ねが、雪小っ子の「聞く力」につながっているのではないかと結論に至りました。

「聞く力」は、相手への思いやり、やさしさにもつながります。一生懸命に聞いてくれるからこそ、話し手の「話す力」も高まります。



今後も雪小っ子の「話す力」「聞く力」を精一杯に伸ばしていこうと、全職員で固く誓いました。

まもなく、学校は第2学期の終業式を迎えます。

1年でもっとも長いこの2学期を、事故等なく無事に終わられるのも、ひとえに保護者・地域の皆様のご理解とご協力があったからこそです。



本当にありがとうございました。
今後も本校の教育活動に対し、変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。
皆様それぞれに、どうぞよい年をお迎えください。
(文責 校長)